

# 『こどもの育ちにおける 安心と挑戦の循環に関する調査』 報 告 書

公益社団法人 全国私立保育連盟 保育運動推進会議・調査部

## はじめに(保育運動推進会議からの巻頭言)

この度の国が進めるこども基本法を踏まえて、示された『はじめの100カ月の育ちビジョン』は、私たち保育施設での保育に関わる立場として、正に不可欠な内容となっています。一概に、こどもの面倒を見るという上から目線の視点から、権利と尊厳を保障し毎日の生活の中でも「安心」と「挑戦」の繰り返しの重要性を定義するなど、こころに寄り添いながらこどもの思いを大切にすることが定義されています。

一方、全国私立保育連盟(以下、当連盟)でもこれら以前となる令和3年より、保育推進運動を展開し、その内容には、私たちが日々子ども達と接する専門的な立場から抽出した7つのメッセージをもとに、こども理解に向けた啓発活動を始めています。これら次の世代づくりを踏まえたこどもに関わる多様な活動は、こども家庭庁がすすめる「こどもまんなかプロジェクト」などとも方向性を同じくするものと考え、力を合わせ社会全体に向けた大きな波として、時代変革の基となることをねらいとしています。

今回の調査では、国の『育ちビジョン』における、育ちに必要な「アタッチメント(愛着)」の理解、更に、当連盟の進める保育運動の周知度や理解度などについて、ご意見を頂くことを主なポイントとしています。

ご協力頂きました1133件の回答には、前提として理事長・園長からが多く、クラスリーダーを含む現場の保育者と比べ圧倒的な差が見られました。これは、特に保育理念に関わる内容であったことと、保育通信をはじめとする周知方法も、管理的な立場の方へのアプローチが強かったことが窺えます。

また、保育運動の展開については、当連盟が行う全国大会や各種の研修の場でもPR活動を行うと共に一般の方への広がりも意図し、ケロポンズ(カエルちゃんオフィス)様との楽曲プロジェクトにて歌詞に運動の思いを込めた「ちきゅうのこども」をリリースし、親しみ易くわかりやすい周知を目指しました。尚、動画配信サイトでは24万回視聴(ケロポンズオリジナルサイトによる2024/7月末)の実績があるもの、今回の調査では、保育現場での周知には、まだまだ課題を残す結果となっています。今後も保育運動推進会議として、会員内(園)の皆様と共に力を合わせ、保護者様をはじめとする子育てに関わる全ての方との連携を深めて、「新しい時代づくり」を進めて参りたいと思います。皆様に於かれましても今回の結果をご確認頂き、運動内容の理解に繋げて頂けると幸いです。



### 【調査の概要】

調査内容: 本調査報告書後付の「調査票」に基づくインターネット調査

調査対象: 保育施設で働くすべての方

調査機関: 令和6年6月1日～6月30日

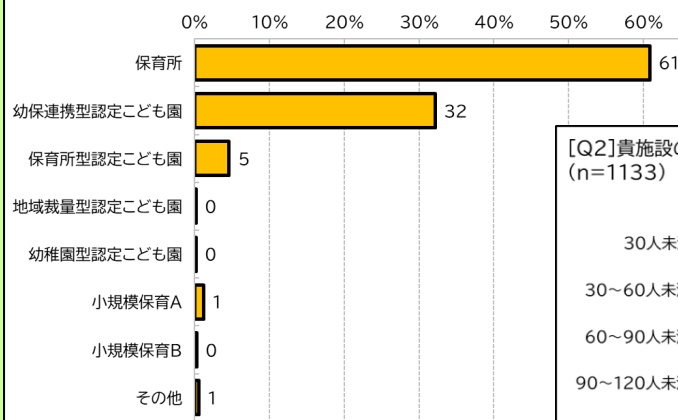
回答数: 1,133 回答

# 「こどもの育ちにおける安心と挑戦の循環に関する調査」

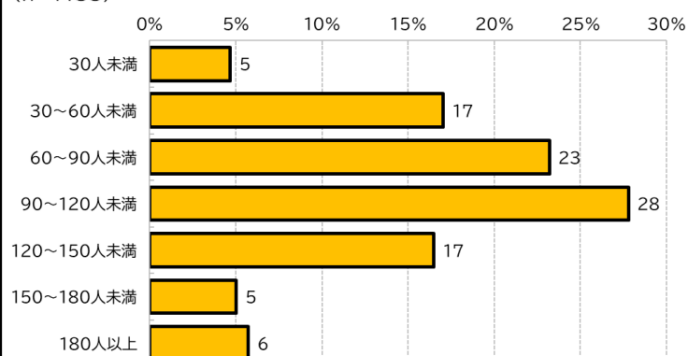
## 単 純 集 計

調査期間：令和 6 年6月1日～6月30日

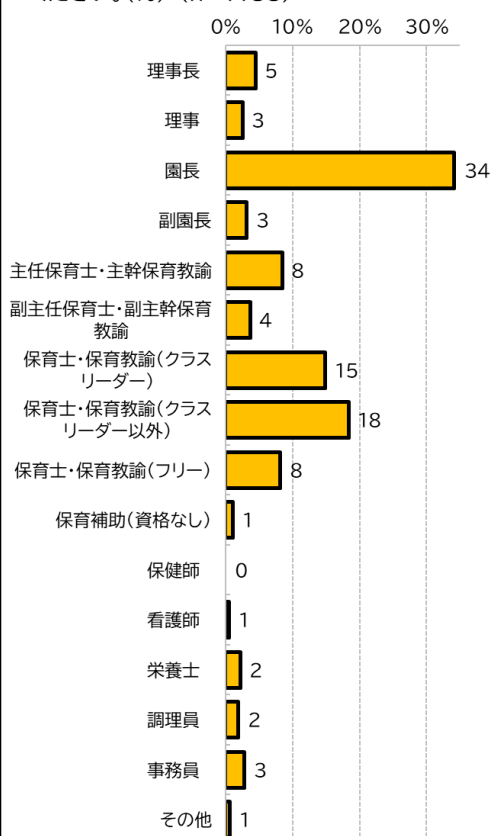
[Q1]ご回答頂いている方の施設の施設種別をお答えください。(%)  
(n=1133)



[Q2]貴施設の在園児の規模についてお答えください。(%)  
(n=1133)



[Q3]ご回答頂いている方の役職をお答えください。(%) (n=1133)

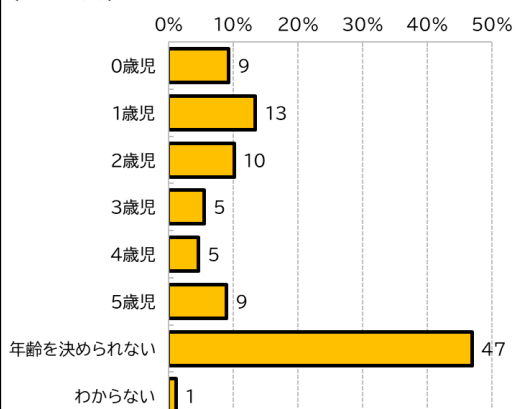


### <調査項目・回答項目の省略について>

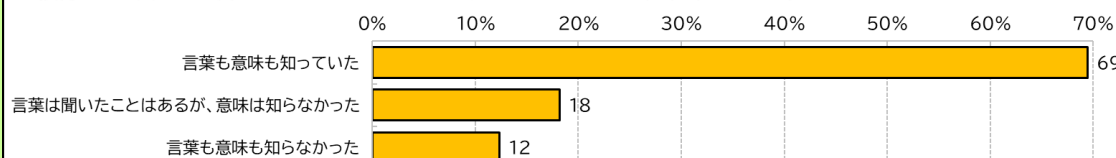
今後の考察における図やグラフ等において、各設問の調査項目や回答項目を紙面の都合上、省略している箇所があります。それらの部分については本報告書後付の調査項目をご参照ください。

またグラフ上の数値は概算値(四捨五入)を用いているため、合計値が100にならない場合があります。

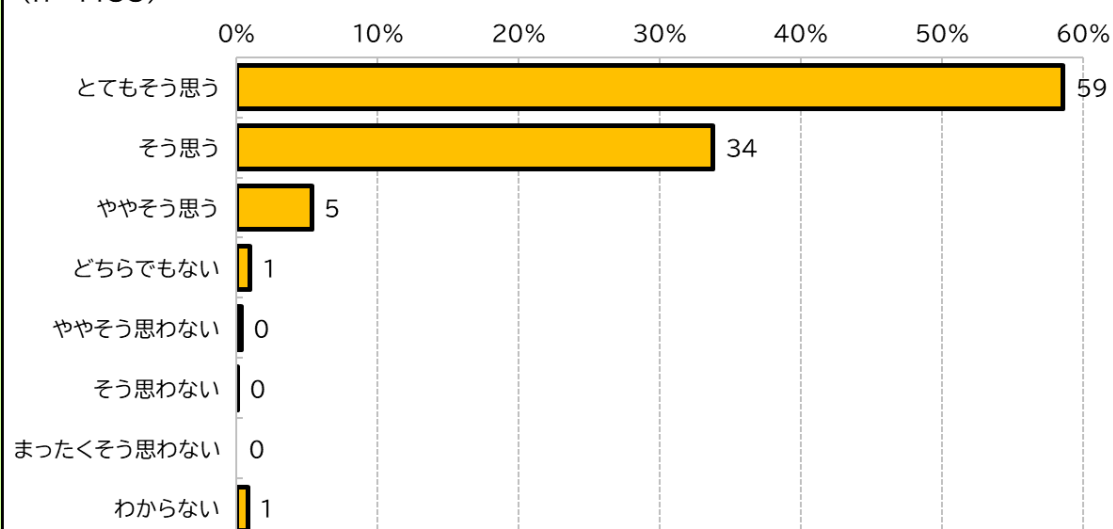
[Q4]今あなたが保育で最も接する子どもの年齢を教えてください。(%)  
(n=1133)



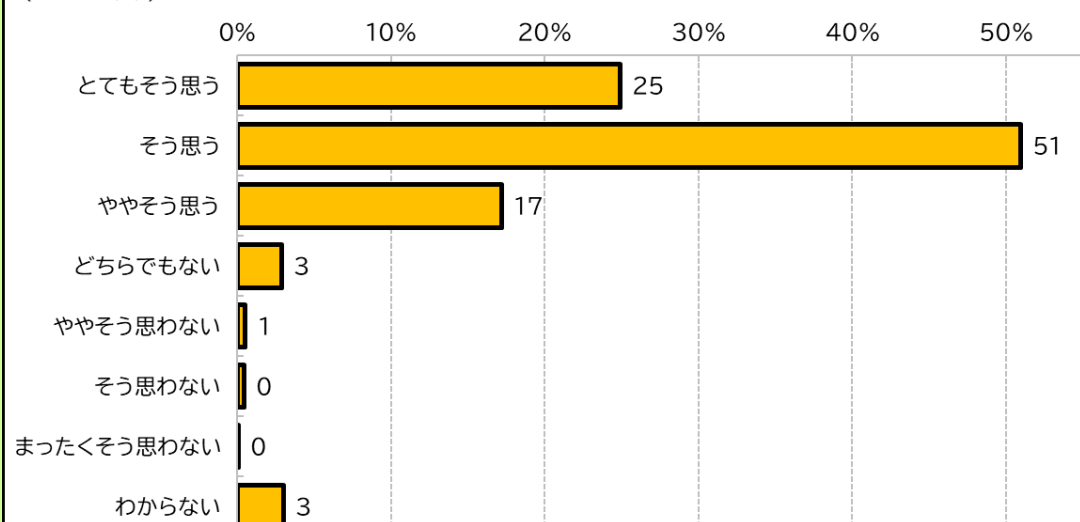
【Q5】国の『育ちビジョン』では、  
こどもの育ちに必要な「アタッチメント(愛着)」は、こどもが怖くて不安な時などに身近なおとな(愛着対象)がその気持ちを受け止め、こどもの心身に寄り添うことで安心感を与えられる経験の繰り返しを通じて獲得される安心の土台である。とされていますが、知っていましたか？(%) (n=1133)



【Q6】『育ちビジョン』では乳幼児のアタッチメント(愛着)形成の対象に保護者だけでなく、専門的な知識を有して接する保育者も該当するとされていますが、その考え方をどのように思いますか？(%) (n=1133)



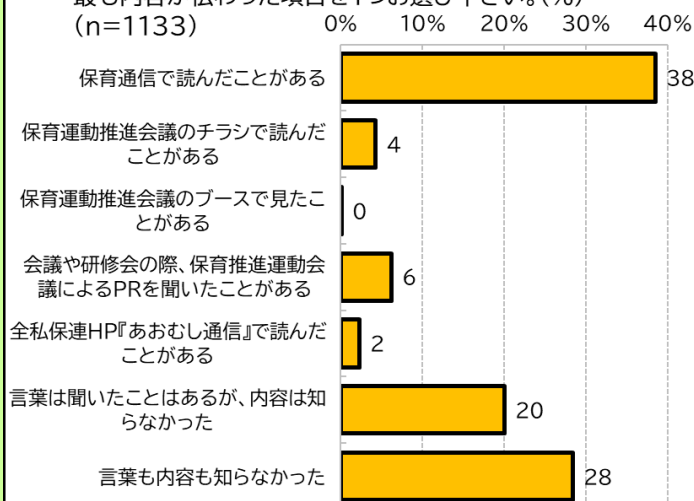
【Q7】あなたは保育を行う上で、乳幼児にとってのアタッチメント(愛着)形成の対象、言い換えれば『安心の土台』の対象となる関係性を築いていると思いますか？(%) (n=1133)



[Q8]全私保連が展開している『新しい時代は子どもから-子どもの今が未来を創る-』と題し、以下の7つのメッセージを発信しています。このメッセージ内容を知っていましたか？

最も内容が伝わった項目を1つお選び下さい。(%)

(n=1133)

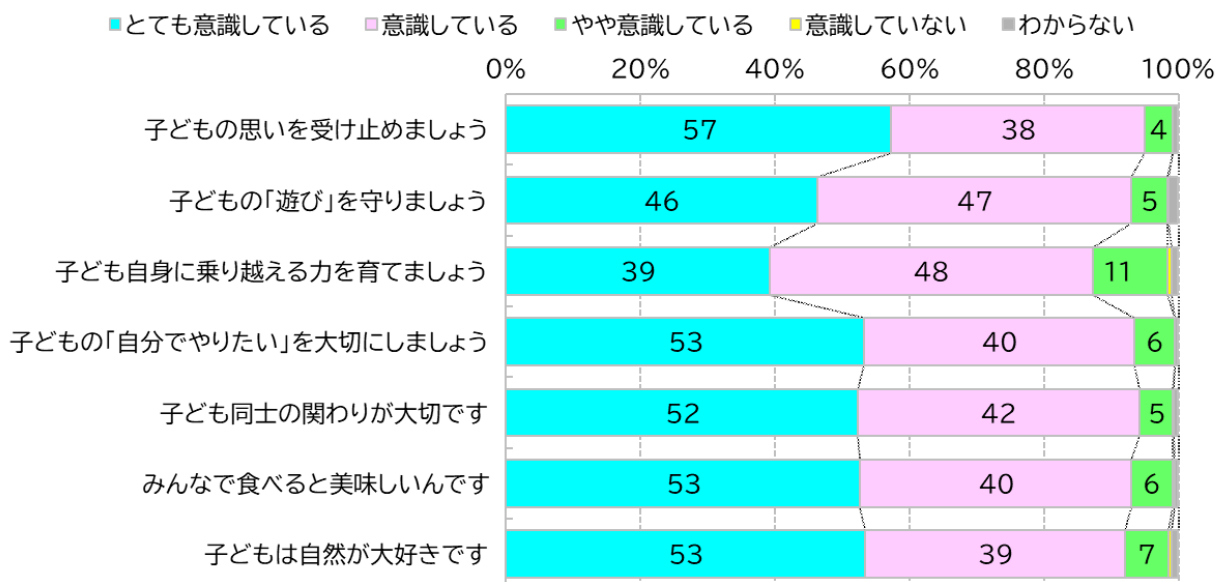


## (公社)全国私立保育連盟

～私たちが伝えたい7つのメッセージ～

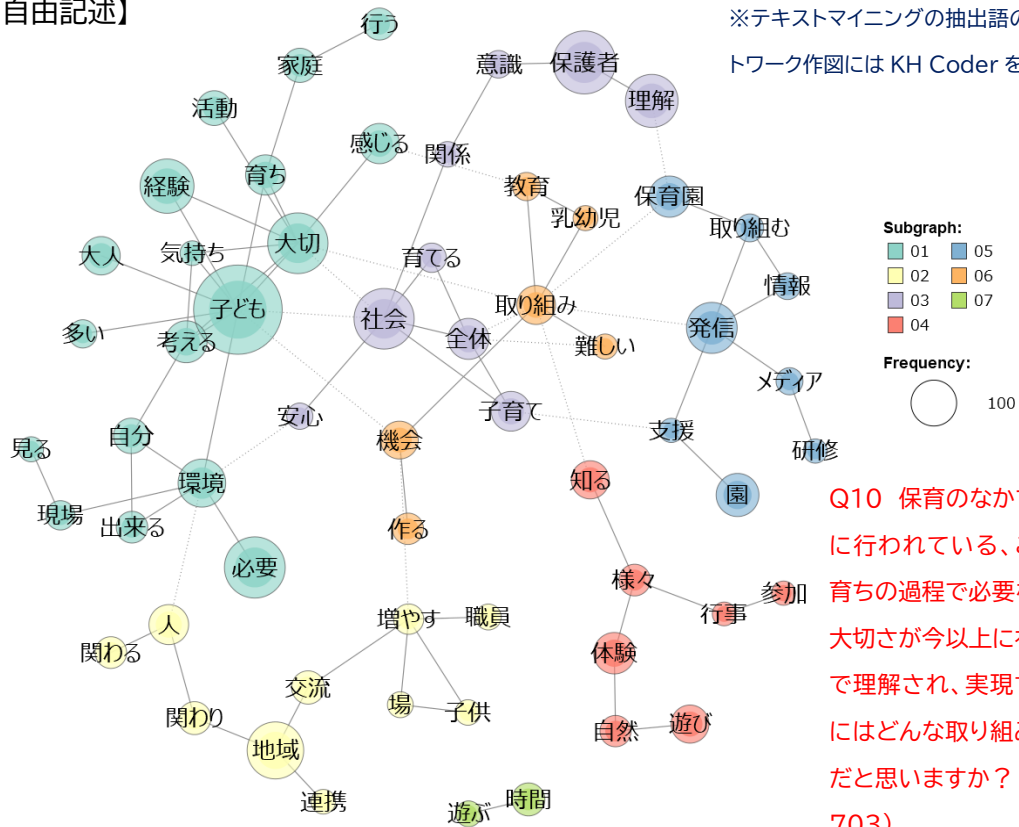
- ① 子どもの思いを受け止めましょう
- ② 子どもの「遊び」を守りましょう
- ③ 子ども自身に乗り越える力を育てましょう
- ④ 子どもの「自分でやりたい」を大切にしましょう
- ⑤ 子ども同士の関わりが大切です
- ⑥ みんなで食べると美味しいんです
- ⑦ 子どもは自然が大好きです

[Q9]問8の7つのメッセージに関連して、あなたは普段の保育で意識していますか？それぞれのテーマについてあなたの状況に最も近い項目をお選び下さい。(%) (n=1133)



【自由記述】

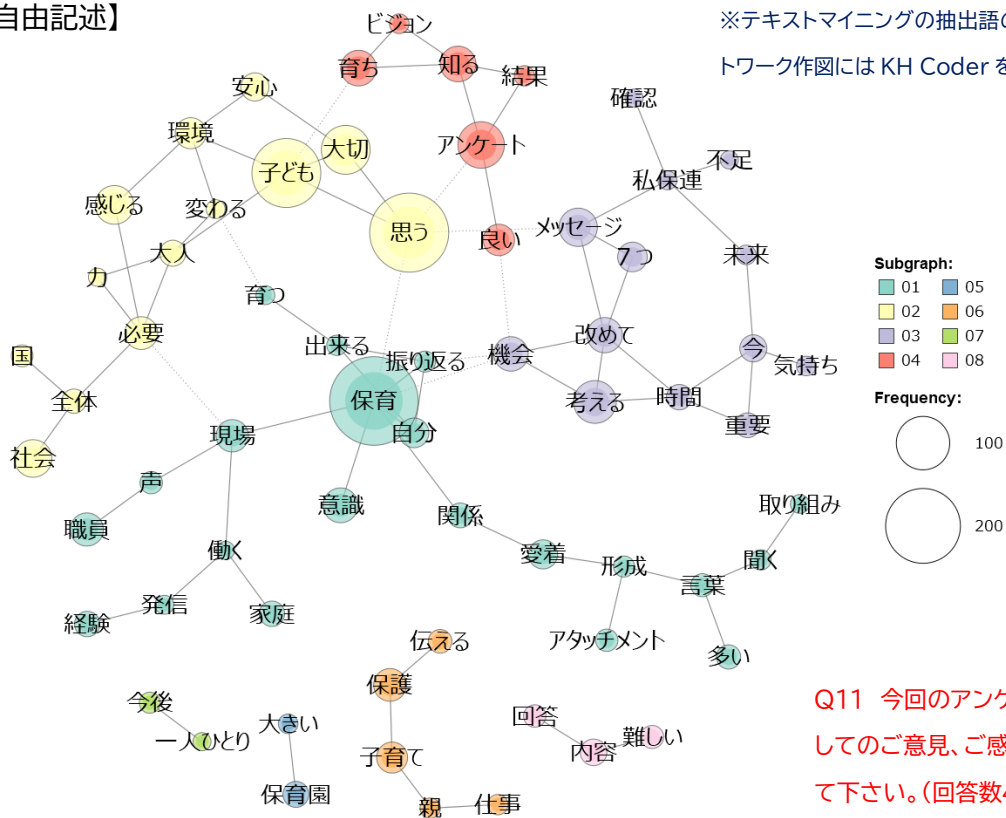
※テキストマイニングの抽出語の共起ネットワーク作図には KH Coder を使用。



Q10 保育のなかで日常的に行われている、こどもの育ちの過程で必要な経験の大切さが今以上に社会全体で理解され、実現するためにはどんな取り組みが有効だと思いますか？（回答数 703）

【自由記述】

※テキストマイニングの抽出語の共起ネットワーク作図には KH Coder を使用。



Q11 今回のアンケートに関してのご意見、ご感想を教えてください。(回答数403)

公益社団法人 全国私立保育連盟 調査部  
「こどもの育ちにおける安心と挑戦の循環に関する調査」  
結果概要

調査結果の分析、考察については調査部内で担当者を決め、なるべく多くの視点から全体像を把握できるように努めた。今回の調査から見えてきた7つの考察と5つのコラムのテーマ概要を掲載順に紹介する。

## まとめ:アタッチメントの再認識と学び直しが様々な成長の鍵に

**考察① アタッチメントの認識度は69%**

**考察② アタッチメントの対象としての保育者**

**コラムⅠ 権利を大切にすること それはアタッチメント(愛着)形成の第一歩**

**考察③ 接する子どもの年齢とアタッチメント**

**コラムⅡ 保育施設におけるアタッチメント形成と現状**

**考察④ 保育関連情報(が示す意味や内容)の周知の状況**

**考察⑤ アタッチメントの理解が日々の保育を充実させる**

**コラムⅢ 乗り越える力を育てましょう**

**考察⑥ Q10 こどもの育ちが社会に理解されること**

**コラムⅣ 安心と挑戦の循環(予測対応は適切に)**

**考察⑦ 自由記述:役職との関連から**

**コラムⅤ 見守りも大切**

## まとめ:アタッチメントの再認識と学び直しが様々な成長の鍵に

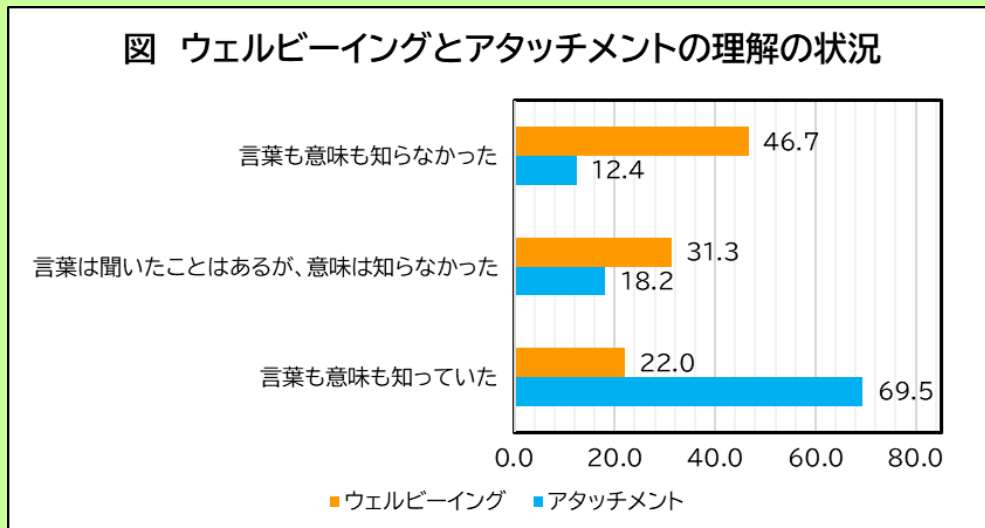
当連盟調査部では、令和5年末に閣議決定された「こども大綱」とともに示された幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン(はじめの100か月の育ちビジョン)に着目し、当連盟の活動と結び付けた調査を企画しました。前回の第1弾であるウェルビーイング調査に続く第2弾として、今回の調査ではアタッチメントに焦点を当てました。

アタッチメントとは、単なる身体的接触やスキンシップとは異なる概念です。子どもたちは、恐れや不安を感じたとき、身近にいる親や保育者に泣きながら近づきます。そして、対象となる特定の人に寄り添うことで、安心感や心のよりどころを得ることができ、その結果、恐れや不安から立ち直り、再びチャレンジする力を得ます。安心感を与える手段は一つではありません。確かに、抱っこなどの身体的接触が最も効果的ですが、たとえ抱っこがなくても、温かな表情や声、言葉で安心感を与えることも重要です。保育者との関わりの中で「安心」を得ることで、子どもたちは新たな「挑戦」に向かって進むことができ、この「安心と挑戦」の繰り返し、子どもの成長に欠かせない要素となります。

アタッチメントという言葉が広まる前から、保育者たちはこの重要性を無意識のうちに理解し、大切にしてきました。さらに、全国私立保育連盟が推進する保育運動『新しい時代は子どもから～子どもの今が未来を創る～』においても、この考え方は重要な位置を占めています。しかし、今回の調査では、全体の3割の方がアタッチメントについて認識していないことが明らかになりました。また、アタッチメントと当連盟の7つのメッセージに関しても、理事長や園長などの管理職と現場の保育者との間に認識のギャップがあることが浮き彫りになりました。保育の基本的な内容ゆえに伝えなくても構わないと判断されたのかもしれませんが、このメッセージは広く社会に向けて発信していきたいものであるため、発信者は一人でも多くという願いがあるということをこの場で改めてお伝えしたいです。

今回の調査を契機にアタッチメントの重要性を再認識し改めて学び直すことが必要であり、個々のアタッチメントが大人になってからの様々な人との関わり方にまで影響していることを考えると、人間関係の課題の解消にも役立つ可能性があります。安心と挑戦の循環はこどもの育ちのみならず、大人になっても、そして職場や様々な組織においても成長する過程で必要な『仕組み』、『考え方』ですので、この報告書がその一助になれば幸いです。

## 考察① アタッチメントの認識度は69%（Q5）



調査部が2024年2月に行ったウェルビーイングに関する調査(次ページ右下参照)において、ウェルビーイングの認識(言葉も意味も知っている)率は22%であったのに対し、アタッチメントは69%であった。アタッチメントはこれまで保育において子どもと保育者との関わりの中かで育まれる愛着として理解されていた。『保育指針』においても乳児保育の項で「受容的・応答的な関わり」や「特定の保育士が応答的に関わる」という表現で示されている。

ウェルビーイングとアタッチメントの2つのワードは今後『育ちビジョン』を理解し、保育の中で実践していく上で大切なキーワードになるため、言葉も意味も知っていた回答者も含めて改めて学び直しが必要であるとする。その上で当連盟の私たちが伝えたい7つのメッセージの内容を職員一人一人が意識し、具現化していくことが重要である。

## 考察② アタッチメントの対象としての保育者（Q5 と Q6Q7 のクロス）

|                                |                        | Q6『育ちビジョン』では乳幼児のアタッチメント(愛着)形成の対象に保護者だけでなく、専門的な知識を有して接する保育者も該当するとされていますが、その考え方をどのように思いますか？ |                 |          |                |                 |                      |                |                        |               |
|--------------------------------|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------|----------------|-----------------|----------------------|----------------|------------------------|---------------|
|                                |                        | 全体                                                                                        | とても<br>そう<br>思う | そう<br>思う | やや<br>そう<br>思う | どちら<br>でも<br>ない | やや<br>そう<br>思わ<br>ない | そう<br>思わ<br>ない | まったく<br>そう<br>思わ<br>ない | わか<br>らな<br>い |
| 全体                             |                        | (1133)                                                                                    | 58.6            | 33.8     | 5.4            | 1.0             | 0.4                  | 0.1            | 0.0                    | 0.8           |
| Q5 アタ<br>ッチ<br>メン<br>トに<br>ついて | 言葉も意味も知っていた            | (787)                                                                                     | 66.3            | 29.6     | 2.9            | 0.5             | 0.3                  | 0.1            | 0.0                    | 0.3           |
|                                | 言葉は聞いたことはあるが、意味は知らなかった | (206)                                                                                     | 38.3            | 46.6     | 11.7           | 1.9             | 1.0                  | 0.0            | 0.0                    | 0.5           |
|                                | 言葉も意味も知らなかった           | (140)                                                                                     | 45.0            | 38.6     | 10.0           | 2.1             | 0.0                  | 0.0            | 0.0                    | 4.3           |

|                                |                        | Q7 あなたは保育を行う上で、乳幼児にとってのアタッチメント(愛着)形成の対象、言い換えれば『安心の土台』の対象となる関係性を築いていると思いますか？ |                 |          |                |                 |                      |                |                        |               |
|--------------------------------|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------|----------------|-----------------|----------------------|----------------|------------------------|---------------|
|                                |                        | 全体                                                                          | とても<br>そう<br>思う | そう<br>思う | やや<br>そう<br>思う | どちら<br>でも<br>ない | やや<br>そう<br>思わ<br>ない | そう<br>思わ<br>ない | まったく<br>そう<br>思わ<br>ない | わか<br>らな<br>い |
| 全体                             |                        | (1133)                                                                      | 24.9            | 50.9     | 17.2           | 2.9             | 0.5                  | 0.4            | 0.1                    | 3.0           |
| Q5 アタ<br>ッチ<br>メン<br>トに<br>ついて | 言葉も意味も知っていた            | (787)                                                                       | 30.0            | 50.7     | 14.6           | 1.8             | 0.5                  | 0.5            | 0.1                    | 1.8           |
|                                | 言葉は聞いたことはあるが、意味は知らなかった | (206)                                                                       | 10.2            | 56.8     | 23.8           | 4.9             | 0.5                  | 0.0            | 0.0                    | 3.9           |
|                                | 言葉も意味も知らなかった           | (140)                                                                       | 17.9            | 43.6     | 22.1           | 6.4             | 0.7                  | 0.7            | 0.0                    | 8.6           |

2023年12月に閣議決定された『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン』では、アタッチメントが子どもとその保護者にのみ形成されるのではなく、専門的な知識を有して日常的に接する保育者もアタッチメントの対象になるとされている。Q6 と Q7 の結果から、実際に日々子どもと向き合っている保

育者もそのことを実感しているのが分かる。具体的には子どもの気持ちを受けとめ、心身に寄り添うこと、いわゆる「アタッチメント」が安心の土台につながるということは約7割(青枠)の職員が認識しており、その愛着の対象が保護者だけでなく身近でかかわる保育者も該当すると9割(赤枠)の職員が感じている。

しかしながらアタッチメントの意味を理解しないまま自身がアタッチメントの対象と認識している回答も多く(黄枠)、アタッチメントが愛情やスキンシップと混同して理解されている可能性もあるので再度職場内での確認と、アタッチメントは子どもによって個人差があるなど、保護者の養育にも影響を受けることを学んでおきたい。

## コラムⅠ 権利を大切にすること それはアタッチメント(愛着)形成の第一歩

保護者だけでなく、子どもを取り巻くまわりの大人、特に保育者は保護者の代わりとなり、同じ時間をともに過ごしている。だからこそ、もっとも身近な保育者とのアタッチメント形成により安心感を与えられる経験の繰り返しが子どもたちの健やかな成長につながり、豊かな育ちを支えているのだろう。そのために、常に子どもたちにとって最もよいことは何かを第一に考える、まさに『こどもまんなか』である。それと同時に子どもが育つための最も重要な環境である職員間の関係性も豊かなものでなければならないと感じている。

そのためには、子どものことを職員間で共有し、共通認識・共通理解を図ることが大切であるが、ただ情報提供だけを共有するのではなく、意見交換も行いながら、職員間の温度差を小さくし、子ども一人一人にあった関わりにつながるようにしたいものである。

子どもは、守られている安心感や信頼感から生まれる安定した情緒が子ども自身の支えとなり、遊びや原体験をとおして失敗や成功体験を繰り返す。そして、連続した育ちの中で自己肯定感が育まれ、挑戦という意欲の高まりにつながっていくのではないかと考える。

子どもの最善の利益である子どもの権利については、すべてのベースにあるアタッチメントのなおも根底に位置づけられる根っこ部分ではないだろうか。そして、それは誰もが生まれた瞬間から持つアタッチメント形成につながる重要なものであり、ウェルビーイングを高めるために守るべきものであると思う。

すべての子どもたちが自分らしく、安心して生活できるよう、一人一人の子どもたちに深い愛情とあたたかなまなざしを注ぎ、人として育つ根っこである子どもの権利を大切に考えていきたい。

### 「こどもと保育者における生活満足度(ウェルビーイング)に関する調査」報告書

公益社団法人 全国私立保育連盟 調査部

#### はじめに

2023年12月22日にこども大綱とともに閣議決定された「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン(はじめの100か月の育ちビジョン)」では全てのこどもの生活にわたる身体的・精神的・社会的な観点での包括的な幸福としてウェルビーイングの向上が謳われています。ウェルビーイング(well-being)は文字通りwellとbeingを合わせた造語として概念的に良好な状態、満たされた状態とイメージすることができ、誰もが理想とする状態とも考えます。

そのような観点から我が国の現状を見てみると、3月20日の『国際幸福デー』に国際連合の持続可能な開発ソリューション・ネットワーク(Sustainable Development Solutions Network=SDSN)と英オックスフォード大学ウェルビーイング・リサーチ・センター(Wellbeing Research Centre)、米ギャラップ(Gallup)が発表した「2024年世界幸福度報告(World Happiness Report 2024)」における日本の順位は51位でした。評価項目が「利他の心」を重んじるアジア文化圏の国にとっては不利という見解もありますが、経済的にも物質的にも比較的恵まれている日本の現状としては低いと言わざるを得ません。これまで日本人がよい国、よい社会を作ろうとして長い間努力してきたことは何だったのでしょうか。時代と共に幸福の意味も変化している可能性はありますが、日本人が得たかと思っていた幸福はもしかしたら本当の幸福とは少しズレていたのかもしれない。

今、こどものウェルビーイングの向上が子育てや保育の目指すべき方向とされるのを機に、私たち保育者はウェルビーイングの理解を深め、そして保育とウェルビーイングの関係を明らかにする必要性があると考え全私保連調査部では今回のこどもと保育者における生活満足度(ウェルビーイング)に関する調査を行いました。調査結果においてウェルビーイングの産業も意味も知っている回答は全体の22%であることが示されており、まだまだ保育に浸透していない事が分かりました。本報告書をお読み頂くことで少しでも皆さんにとってウェルビーイングが身近なものになれば幸いです。

#### (調査の概要)

調査内容: 本調査報告書 33 頁に添付した「調査票」に基づくインターネット調査  
調査対象: 保育施設で働くすべての方  
調査期間: 令和6年2月1日～2月29日  
回答数: 2,135 回答



### 考察③ 接する子どもの年齢とアタッチメント（Q4とQ6Q7のクロス）

|                                 |        | Q6『育ちビジョン』では乳幼児のアタッチメント(愛着)形成の対象に保護者だけでなく、専門的な知識を有して接する保育者も該当するとされていますが、その考え方をどのように思いますか？(%) |          |          |             |                  |            |                        |           | Q7 あなたは保育を行う上で、乳幼児にとってのアタッチメント(愛着)形成の対象、言い換えれば『安心の土台』の対象となる関係性を築いていると思いますか？(%) |          |          |             |                  |            |                        |           |
|---------------------------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|-------------|------------------|------------|------------------------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|-------------|------------------|------------|------------------------|-----------|
|                                 |        | とても<br>思う                                                                                    | そう<br>思う | やや<br>思う | どちら<br>でもない | やや<br>そう<br>思わない | そう<br>思わない | まっ<br>たく<br>そう<br>思わない | わか<br>らない | とても<br>思う                                                                      | そう<br>思う | やや<br>思う | どちら<br>でもない | やや<br>そう<br>思わない | そう<br>思わない | まっ<br>たく<br>そう<br>思わない | わか<br>らない |
| 全体                              | (1087) | 58.5                                                                                         | 33.8     | 5.4      | 1.0         | 0.4              | 0.1        | 0.0                    | 0.8       | 25.3                                                                           | 50.5     | 17.0     | 2.9         | 0.6              | 0.5        | 0.1                    | 3.1       |
| Q4 今あなたが保育で最も接する子どもの年齢を教えてください。 |        |                                                                                              |          |          |             |                  |            |                        |           |                                                                                |          |          |             |                  |            |                        |           |
| 0歳児                             | (97)   | 53.6                                                                                         | 36.1     | 9.3      | 0.0         | 1.0              | 0.0        | 0.0                    | 0.0       | 27.8                                                                           | 55.7     | 14.4     | 2.1         | 0.0              | 0.0        | 0.0                    | 0.0       |
| 1歳児                             | (139)  | 55.4                                                                                         | 33.1     | 9.4      | 2.2         | 0.0              | 0.0        | 0.0                    | 0.0       | 27.3                                                                           | 55.4     | 15.8     | 0.7         | 0.0              | 0.7        | 0.0                    | 0.0       |
| 2歳児                             | (108)  | 50.9                                                                                         | 40.7     | 5.6      | 0.9         | 0.0              | 0.0        | 0.0                    | 1.9       | 16.7                                                                           | 69.4     | 9.3      | 2.8         | 0.0              | 0.0        | 0.0                    | 1.9       |
| 3歳児                             | (60)   | 43.3                                                                                         | 48.3     | 8.3      | 0.0         | 0.0              | 0.0        | 0.0                    | 0.0       | 11.7                                                                           | 50.0     | 35.0     | 0.0         | 0.0              | 0.0        | 1.7                    | 1.7       |
| 4歳児                             | (51)   | 51.0                                                                                         | 39.2     | 9.8      | 0.0         | 0.0              | 0.0        | 0.0                    | 0.0       | 25.5                                                                           | 56.9     | 15.7     | 0.0         | 0.0              | 0.0        | 0.0                    | 2.0       |
| 5歳児                             | (96)   | 58.3                                                                                         | 35.4     | 2.1      | 2.1         | 1.0              | 0.0        | 0.0                    | 1.0       | 24.0                                                                           | 49.0     | 18.8     | 4.2         | 1.0              | 1.0        | 0.0                    | 2.1       |
| 年齢を決                            | (522)  | 65.3                                                                                         | 29.7     | 3.1      | 0.8         | 0.4              | 0.2        | 0.0                    | 0.6       | 28.5                                                                           | 45.2     | 16.9     | 4.0         | 0.8              | 0.6        | 0.0                    | 4.0       |
| わからな                            | (14)   | 21.4                                                                                         | 28.6     | 21.4     | 7.1         | 0.0              | 0.0        | 0.0                    | 21.4      | 0.0                                                                            | 7.1      | 28.6     | 7.1         | 7.1              | 0.0        | 0.0                    | 50.0      |

Q4において回答数が多い【年齢を決められない】を選択したのは主に園長や主任などの管理職と想像できるが、保育に対する理解の深さから Q6 においても肯定的な回答(赤枠)が多かった。一方、普段から子どもと接していると考えられる0～5歳児を回答したなかで3歳児においては肯定的な回答がやや低かった。これは調査した6月時点で子どもとの関係性が十分に築かれていない状況、すなわちアタッチメントが特定の人と築かれるものとして考えると、無償化によって3歳で4月からの新規入所が多い状況下において保育者:子どもの配置が1:15では難しいことを示しているのではないだろうか。

## コラムⅡ 保育施設におけるアタッチメント形成と現状

多くの場合、家庭でのアタッチメントが先行しますが、日常的に専門的知識とスキルを有してこどもと接する保育者ともアタッチメントは形成されます。家庭で安定的なアタッチメントが形成されていれば子どもにとって大人は信頼できる存在として認識され、保育施設においてもその環境下での安心の基地となる対象(保育者)を見つけやすくなると思われます。保育施設側でも乳児保育などでは担当制など『特定の人(保育者)』との関わりを多く持つことでアタッチメントが形成されやすくなる取り組みがなされています。

一方日本の労働時間の長さを支えるために、施設における保育時間も長時間実施するという状況があります。日本の標準的な労働時間である1日8時間の週40時間を上回る1日11時間の週66時間開所を保育施設では課せられるために、クラス担任が交代したり、土曜日保育を実施するために平日に休暇を取得する、正規職員の不足をパートタイム職員で補充するなどの結果、切り貼り状態の人員配置(子どもにとって特定の人を決めにくい状況)で園を運営しなければならない実情があります。保育現場のこのような状況は子どもの育ちにとってプラスになっているのか？と疑問を持ちながら、されど日々の保育は一生懸命頑張っている保育者の姿があると思います。昨年打ち出された『こどもまんなか社会』の実現のベースとして日本全体の働き方から見直す(労働時間の短縮など)ことから着手されることが必要と感じます。

## 考察④ 保育関連情報(が示す意味や内容)の周知の状況 (Q8)

|                                                                    |                     |                                                                                                                       |               |                       |                      |                                 |                         |                        |              |
|--------------------------------------------------------------------|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|-----------------------|----------------------|---------------------------------|-------------------------|------------------------|--------------|
| ～私たちが伝えたい7つのメッセージ～                                                 |                     | Q8 全私保連が展開している『新しい時代は子どもから- 子どもの今が未来を創る -』と題し、以下の7つのメッセージを発信しています。<br>このメッセージ内容を知っていましたか？<br>最も内容が伝わった項目を1つお選び下さい。(%) |               |                       |                      |                                 |                         |                        |              |
|                                                                    |                     | 全体                                                                                                                    | 保育通信で読んだことがある | 保育運動推進会議のチラシで読んだことがある | 保育運動推進会議のブースで見たことがある | 会議や研修会の際、保育推進運動会議によるPRを聞いたことがある | 全私保連HP『あおむし通信』で読んだことがある | 言葉は聞いたことはあるが、内容は知らなかった | 言葉も内容も知らなかった |
| 全体                                                                 |                     | (1133)                                                                                                                | 38            | 4                     | 0                    | 6                               | 2                       | 20                     | 28           |
| Q<br>3<br>ご<br>回<br>答<br>頂<br>い<br>て<br>い<br>る<br>方<br>の<br>役<br>職 | 理事長                 | (51)                                                                                                                  | 55            | 6                     | 0                    | 20                              | 6                       | 8                      | 6            |
|                                                                    | 理事                  | (29)                                                                                                                  | 62            | 3                     | 0                    | 7                               | 0                       | 10                     | 17           |
|                                                                    | 園長                  | (387)                                                                                                                 | 68            | 3                     | 0                    | 8                               | 5                       | 8                      | 8            |
|                                                                    | 副園長                 | (36)                                                                                                                  | 44            | 3                     | 0                    | 0                               | 6                       | 25                     | 22           |
|                                                                    | 主任保育士・主幹保育教諭        | (96)                                                                                                                  | 47            | 6                     | 0                    | 10                              | 0                       | 13                     | 24           |
|                                                                    | 副主任保育士・副主幹保育教諭      | (42)                                                                                                                  | 24            | 12                    | 0                    | 7                               | 2                       | 26                     | 29           |
|                                                                    | 保育士・保育教諭(クラスリーダー)   | (169)                                                                                                                 | 19            | 5                     | 1                    | 6                               | 0                       | 28                     | 42           |
|                                                                    | 保育士・保育教諭(クラスリーダー以外) | (208)                                                                                                                 | 15            | 4                     | 0                    | 5                               | 0                       | 32                     | 44           |
|                                                                    | 保育士・保育教諭(フリー)       | (93)                                                                                                                  | 23            | 3                     | 0                    | 6                               | 0                       | 29                     | 39           |
|                                                                    | 保育補助(資格なし)          | (12)                                                                                                                  | 17            | 8                     | 0                    | 0                               | 0                       | 33                     | 42           |
|                                                                    | 保健師                 | (0)                                                                                                                   | 0             | 0                     | 0                    | 0                               | 0                       | 0                      | 0            |
|                                                                    | 看護師                 | (6)                                                                                                                   | 17            | 17                    | 0                    | 0                               | 0                       | 17                     | 50           |
|                                                                    | 栄養士                 | (25)                                                                                                                  | 20            | 0                     | 4                    | 0                               | 0                       | 24                     | 52           |
|                                                                    | 調理員                 | (22)                                                                                                                  | 9             | 0                     | 0                    | 5                               | 0                       | 32                     | 55           |
| 事務員                                                                | (32)                | 16                                                                                                                    | 3             | 0                     | 3                    | 6                               | 25                      | 47                     |              |
| その他                                                                | (7)                 | 57                                                                                                                    | 0             | 0                     | 0                    | 0                               | 29                      | 14                     |              |

アタッチメントを含め、日々刷新される保育に関する用語や制度の仕組みはどの様に保育の現場まで届くのだろう。

今回の調査において、当連盟が発信している7つのメッセージについて、保育通信で読んだことがあるという回答は、園長が最も多かったが、保育士・保育教諭では言葉は聞いたことあるが内容は知らない、若しくは、言葉も内容も知らないという回答が最も多かった。更に国の『育ちビジョン』について、7つのメッセージを知っていた層の方では8割以上が言葉も意味も知っていたが、そうでない層では低い割合にとどまった。

つまり園長等の管理職は、国の育ちビジョンについても、7つのメッセージについても理解しているが、現場保育者にはなかなか伝わっていない現状が浮かび上がった。これは管理職においては国の資料や全国機関紙に触れる機会が多いが、現場保育者はそ

|                                                  |                                 |                                                   |             |                       |              |
|--------------------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------------------|-------------|-----------------------|--------------|
|                                                  |                                 | Q5 国の『育ちビジョン』における「アタッチメント(愛着)」を知っていましたか？(設問要約)(%) |             |                       |              |
|                                                  |                                 |                                                   | 言葉も意味も知っていた | 言葉は聞いたことあるが、意味は知らなかった | 言葉も意味も知らなかった |
| 全体                                               |                                 | (1133)                                            | 69          | 18                    | 12           |
| Q8<br>7つのメ<br>ッセージ<br>内容を知<br>っていましたか？<br>(設問要約) | 保育通信で読んだことがある                   | (436)                                             | 84          | 12                    | 3            |
|                                                  | 保育運動推進会議のチラシで読んだことがある           | (49)                                              | 80          | 16                    | 4            |
|                                                  | 保育運動推進会議のブースで見たことがある            | (2)                                               | 0           | 50                    | 50           |
|                                                  | 会議や研修会の際、保育推進運動会議によるPRを聞いたことがある | (71)                                              | 75          | 17                    | 8            |
|                                                  | 全私保連HP『あおむし通信』で読んだことがある         | (26)                                              | 73          | 15                    | 12           |
|                                                  | 言葉は聞いたことはあるが、内容は知らなかった          | (227)                                             | 55          | 33                    | 13           |
|                                                  |                                 | (322)                                             | 57          | 17                    | 26           |

のような機会が少なく、また管理職から伝わっていないという事になる。現場保育者は保育の中で子ども達への直接的な関りの時間が多く、それに係る事務や研修など多忙で、分厚い国の資料や広範囲な内容を読み込む時間を十分に取れる人は少ないと思われる。しかし変化の激しい社会情勢における国際的な動き、国の方針、子どもの育ちに重要な部分というものに常に触れながら保育者自身の保育を振り返る機会を持つことは園の運営としても重要な事である。育ちビジョンや7つのメッセージのように簡潔な言葉でまとめられたものを用いて日々の保育に論拠を持ち、振り返りを行うことで、不適切な関りをなくし、安心と挑戦の循環による子どもの育ちを支援できる保育を目指していきたい。

## 考察⑤ アタッチメントの理解が日々の保育を充実させる (Q5 と Q9 のクロス)

| <div> <div></div> <div>全体の値より5%以上上昇の項目</div> </div> | Q9S1 問8の7つのメッセージに関連して、あなたは普段の保育で意識していますか？<br>それぞれのテーマについてあなたの状況に最も近い項目をお選び下さい。(%) |           |        |          |         |       |
|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------|--------|----------|---------|-------|
|                                                     | 全体                                                                                | とても意識している | 意識している | やや意識している | 意識していない | わからない |
| ①[子どもの思いを受け止めましょう]全体                                | (1133)                                                                            | 57.3      | 37.7   | 4.2      | 0.0     | 0.8   |
| Q5 アタッチメントの言葉も意味も知っていた                              | (787)                                                                             | 62.6      | 35.5   | 1.8      | 0.0     | 0.1   |
| ②[子どもの「遊び」を守りましょう]全体                                | (1133)                                                                            | 46.3      | 46.7   | 5.4      | 0.1     | 1.5   |
| Q5 アタッチメントの言葉も意味も知っていた                              | (787)                                                                             | 50.8      | 45.0   | 3.8      | 0.1     | 0.3   |
| ③[子ども自身に乗り越える力を育てましょう]全体                            | (1133)                                                                            | 39.2      | 48.1   | 11.0     | 0.6     | 1.1   |
| Q5 アタッチメントの言葉も意味も知っていた                              | (787)                                                                             | 44.5      | 47.4   | 7.4      | 0.5     | 0.3   |
| ④[子どもの「自分でやりたい」を大切にしましょう]全体                         | (1133)                                                                            | 53.3      | 40.2   | 6.0      | 0.0     | 0.5   |
| Q5 アタッチメントの言葉も意味も知っていた                              | (787)                                                                             | 58.6      | 37.2   | 4.1      | 0.0     | 0.1   |
| ⑤[子ども同士の関わりが大切です]全体                                 | (1133)                                                                            | 52.3      | 41.9   | 4.9      | 0.1     | 0.7   |
| Q5 アタッチメントの言葉も意味も知っていた                              | (787)                                                                             | 57.2      | 39.6   | 2.9      | 0.1     | 0.1   |
| ⑥[みんなで食べると美味しいんです]全体                                | (1133)                                                                            | 52.7      | 40.3   | 6.1      | 0.4     | 0.5   |
| Q5 アタッチメントの言葉も意味も知っていた                              | (787)                                                                             | 54.5      | 39.9   | 5.0      | 0.4     | 0.3   |
| ⑦[子どもは自然が大好きです]全体                                   | (1133)                                                                            | 53.4      | 38.7   | 6.5      | 0.4     | 1.0   |
| Q5 アタッチメントの言葉も意味も知っていた                              | (787)                                                                             | 58.1      | 37.1   | 4.2      | 0.4     | 0.3   |

物事に取り組む場合、その仕組みをよく理解する必要があるのは普遍的な事だが、上記の表のようにアタッチメントの【言葉も意味も知っていた】回答者の方が保育(7つのメッセージの内容)に対する意識が高まっていることが分かる(水色セルは Q9 の全体値、ピンク色セルは Q5 のアタッチメントの言葉も意味も知っていた場合の値)。値の上昇度はそれほど大きくないが、保育の質の向上は小さな事の積み重ねによって実現するものであり、丁寧に保育のひとつひとつを学ぶことの大切さが分かる結果となった。

また表中の赤枠の項目は【とても意識している】が全体値よりも5%以上上昇した項目である。意識がそのまま実際の保育に連動すると仮定すれば、①子どもの思いをしっかり受けとめて安心の土台が出来れば、③乗り越える力や④自分でやりたいという挑戦する気持ちを積極的に育くむ関わりにつながっているのではないかと思う。



別の視点からの考察として③「子ども自身に乗り越える力を育てましょう」の【とても意識している】の値が他の6つの値に比べて小さいことが気になる。乗り越えるというイメージが子どもに対し過度に頑張りを求める関わりになることを危惧している結果なのかもしれない。保育における『不適切な対応』は防がねばならないことだが、そればかりに社会の目が向いていることが保育者の失敗を許容できない雰囲気や挑戦する気持ちを損なう状況にならぬよう、管理者の配慮が望まれる。

## コラムⅢ 乗り越える力を育てましょう

人生には多くの困難が待ち受けています。また、大きな壁にぶつかることもあります。またこれからの社会、気候問題、人口問題、食糧問題など、解決していかなくてはならない多くの問題が山積しています。そんな中を生きていく子どもたちに、わたしたちは何ができるでしょうか。

それは、そんな時代を生き抜く、自ら切り開き乗り越えていく力を育てていくことではないでしょうか。

「乗り越える力を育てる」といえば、何か、大人がチャレンジすることを設定して、そのチャレンジを成功させることで、子どもにそのような力が育っていくというような誤解があるように思います。しかし、この 7 つのメッセージで伝えたいことは、そのような大人によって「させられる」乗り越える力ではありません。子どもたちが自ら「やってみたい」と願い、試行錯誤しながらチャレンジし「やったらできるんだ」と感じる。また失敗したとしても「だいじょうぶ」、「またチャレンジしてみよう」といった気持ちを持つこと、これが「乗り越える力」だと考えます。こういった思いが育っていくことこそが、次の世界をよりよいものにしていき、またよりよく生きていくことができるのではないのでしょうか。そのような気持ちを育んでいくのが私たち大人の責務ではないのでしょうか。

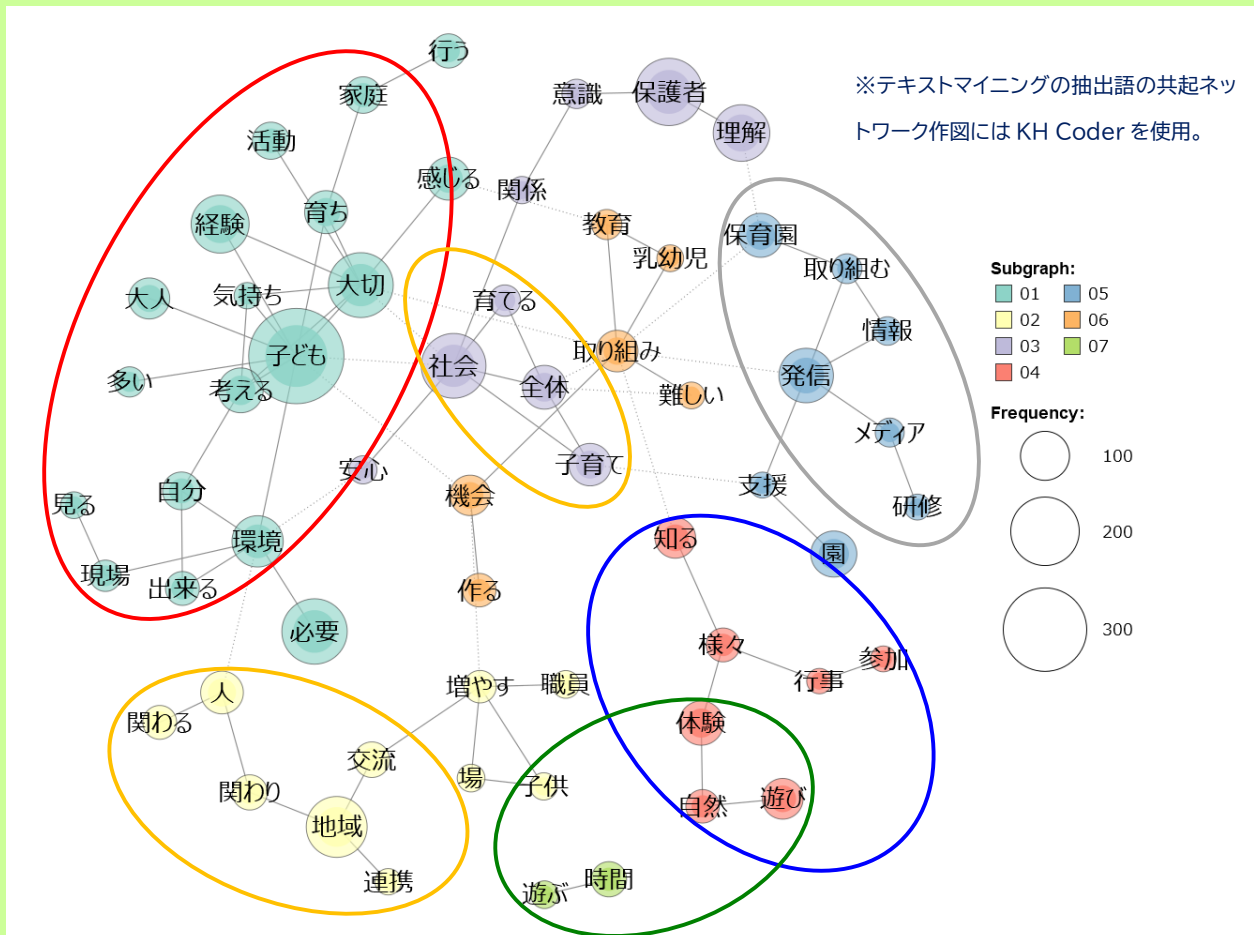
子どもたちがこのような心を育てていくためには、様々なチャレンジが必要です。「100ヶ月のビジョン」ではこのような子どもの育ちを「安心と挑戦の循環」として示しています。こどもが不安なときに身近な大人が受け止め寄り添うことや、安心感をもたらす経験を繰り返すことが、「安心」という土台を築きます。その安心をベースに、様々な人や自然・社会などの環境と出会い、興味・関心に応じた「遊びと体験」をすることで、外の世界へ「挑戦」しながら多くを学び育っていきます。

私たちに必要なのは、子どもの安心できる安全基地であること、そして、子どもの挑戦したいという思いを広げていく環境を整えていくこと、そして子どもが自ら「やってみよう」と願い、一歩を踏み出したときに、その一歩をしっかりと支えて行くということではないのでしょうか。



## 考察⑥ こどもまんなか社会への取り組み（Q10）

下図は自由記述、『Q10保育のなかで日常的に行われている、こどもの育ちの過程で必要な経験の大切さが今以上に社会全体で理解され、実現するためにはどんな取り組みが有効だと思いますか？』の共起ネットワークである。



回答は多岐にわたるが、大きく分けて以下のような考え方や傾向があった。

### 1. こどもを一人の人格として尊重することの重要性(赤線)

回答の多くは、こどもを一人の人格として尊重し、その存在を認めることの重要性について述べている。子どもの権利条約を保育者はもちろん、より多くの人々が理解して『こどもをひとりの人格』として認めることがこどもの自己肯定感を育むという認識があると考えられる。

### 2. 社会全体でのこども支援の必要性(黄線)

「こどもは社会全体で育てる」という視点も多く頂いた。育児の直接的な当事者である保護者だけでなく、地域社会や行政、企業などが一体となってこどもを支援することが求められている。このアプローチは、こどもの安心感を高め、孤独や貧困からも救うことにもつながる。

### 3. 体験活動の重要性(青線)

体験活動を通じて、こどもが自然や社会と関わる機会を提供することが有効であるという意見も多く寄せられた。「植物の植え付けから収穫までの体験活動がこどもにとって重要な学び

となる」という具体例が挙げられているように、様々な活動を通じて、こどもは自ら挑戦し、達成感を得ることで成長する。

#### 4. 遊びの重要性(緑)

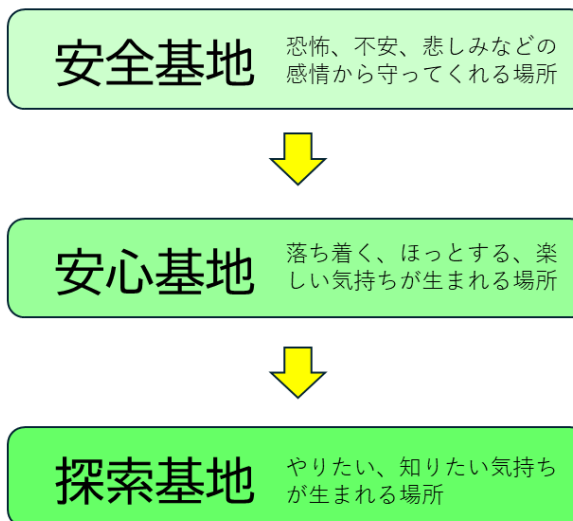
こどもが自ら選んだ遊びを存分に楽しむ時間と場所を提供することが大切である。「強制されることなく、遊び尽くす」という経験がこどもの自主性や創造性を育む。

#### 5. 教育者・保育者における役割と研修の充実、そして発信(灰)

教育者・保育者自身がこどもの権利や成長のプロセスについて深く理解し、それを実践するための研修を充実させることが重要である。またその内容を保護者や地域へ発信することにより、社会全体がこどもの育ちには何が大切で、何が必要であるかを理解することにつながる。

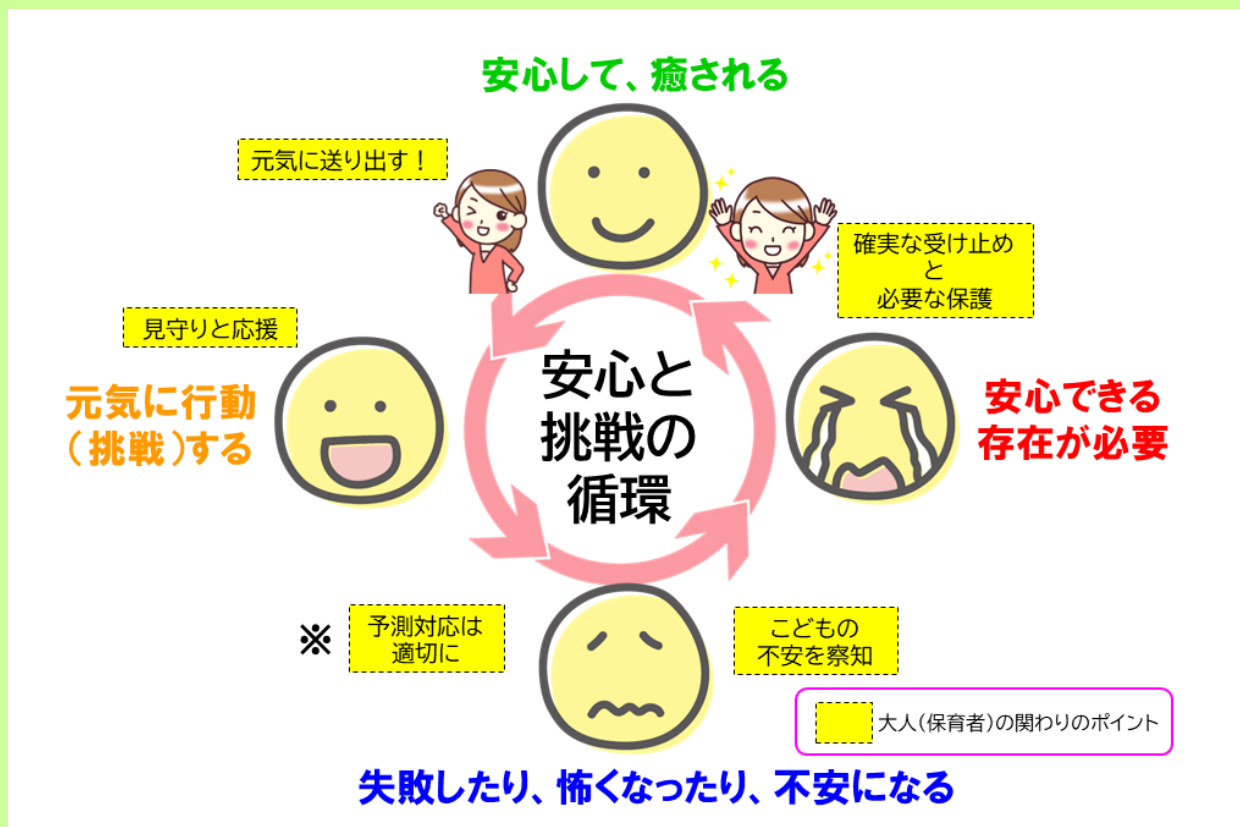
### コラムⅣ 安心と挑戦の循環(予測対応は適切に)

不安や不快といった感情は、いま自分がいる環境(人間関係含め)がこのまま続くと生命の危機にさらされていると気がつくために人間が獲得したものという説があります。特に人間の赤ちゃんは非常にか弱い存在であるため、その環境から身を守るために安全な場所(基地)が必要なのです。そして安全の次には落ち着く、ほっとする楽しいなどのプラスの気持ちが生まれる安心基地、そのプラスの気持ちを行動にうつすための探索基地へと変化していきます。



次ページの図は子どもの行動における『安心と挑戦の循環』を概念化したものですが、子どもが不安なときにしっかりと受け止めることが大切であり、この場面で対応する大人の状況(忙しい、その時の気分など)によって変わったり、受け止めに対して何らかの条件(泣き止まないとかダメ等)がつくのは望ましくありません、安定的なアタッチメント形成の妨げになります。

またアタッチメントは受け止めや身体的・気持ち的な『くっつき』のイメージが強いと思いますが、安心して、癒されて、元気になったら自分の遊びに送り出してあげることも大切です。関わる大人も気持ちを切り替えて、こどもの行動(遊び、挑戦)を見守り、応援をしましょう。(次ページへ)



こうした安心と挑戦の循環を何度も繰り返すことが、子どもの育ちの過程のなかで重要でありその循環が少しずつ広がりながら大人になっていきます。

この循環のなかで気をつけたいことがあります。それはこどもの不安を受け止め、不安を取り除くことが転じて、不安や失敗をしないようにするため、大人がこどもの行動を予測、対応し過ぎてしまうことです。

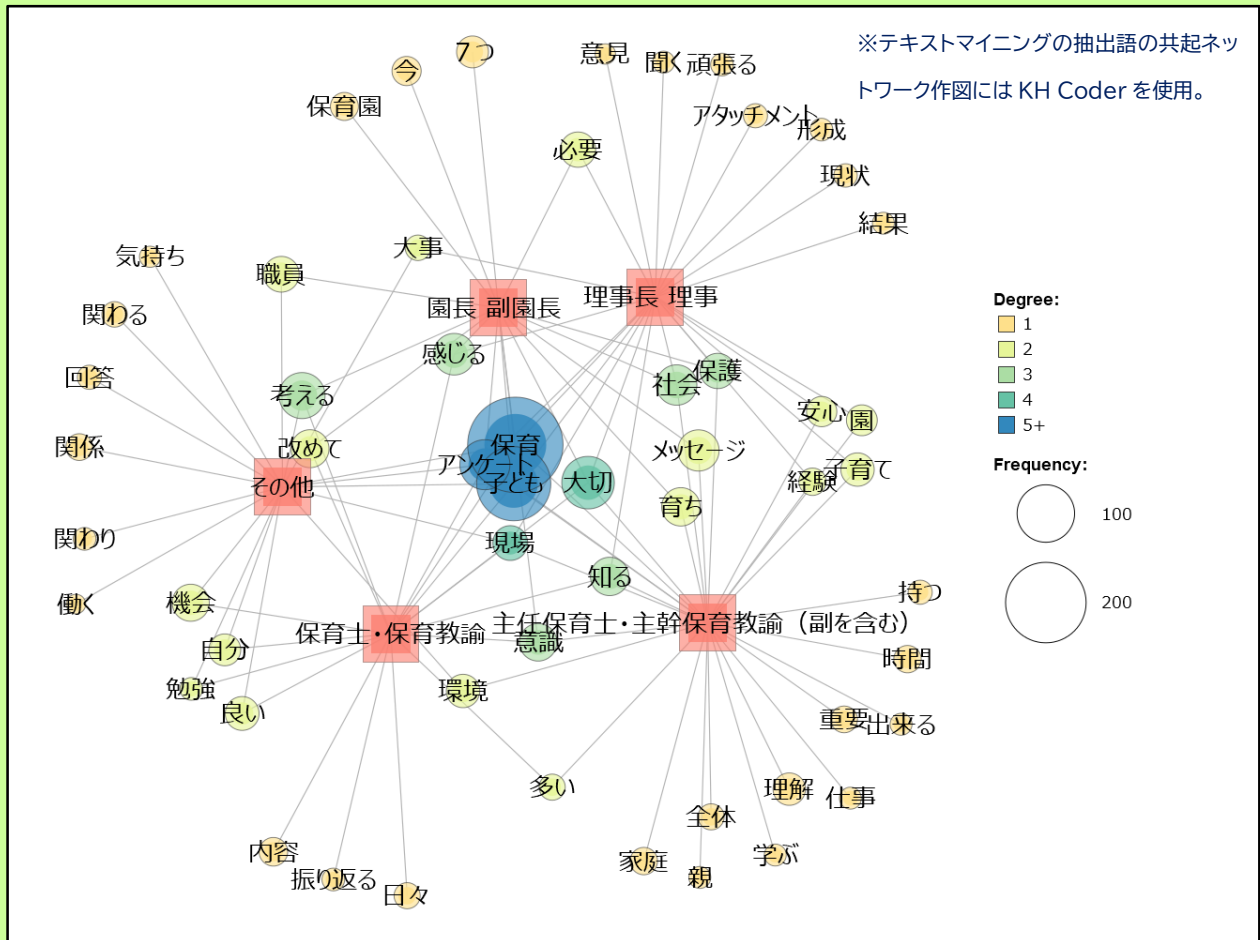
すなわちこどもの行動を大人が先回りして、失敗や悲しい思いをしないように誘導することは、子どもが直面する困難を避けることが出来る反面、困難な状況を自分で外部に発信する機会を奪うこと、自分の困難を乗り越える機会を奪うことになります。子どもの不安を的確に読み取る『感性』は必要なスキルですが、それを実際の関わりとして対応するかは区別することが大切です。(コラムⅤへ続く)

## 参考文献、参考サイト

- 遠藤利彦 著 『アタッチメントがわかる本』(講談社)
- 繁多進 著 『基礎講義アタッチメント』(岩崎学術出版社)
- 米澤好史 著 『愛着アセスメントツール』(合同出版)
- 公益財団法人 母子健康協会 HP

## 考察⑦ 自由記述:役職との関連から (Q11)

Q11 自由記述「本アンケート調査へのご意見や感想」は本調査に取り組んだ回答者が各自の保育の振り返りの場となったと捉えた。自由記述と役職とを関連させた共起ネットワークからその傾向や特筆する意見について考察した。(役職毎の回答数に重複があります)



理事長・理事を含む法人役員からは36の回答を頂いた。本アンケートの子どもの育ちに関するメッセージを伝えていくことや、保護者や地域で共有することが大切といった意見が複数寄せられたが、それは保育施設だけで行うには限界があり、自治体等も同じ思いで取り組むことへの意見があった。

園長・副園長という運営管理者からは191の回答が寄せられた。法人役員の回答と同様に、7つのメッセージを発信することを尊重しつつ、より具体的な方法が複数述べられていた。例えば、「本アンケートを全職員で行いたい」といった感想や「本メッセージをプリントしたTシャツを着ての行事」、さらに「保育関係者以外(大人だけではなく、小中・高・大学生等)へのアンケートの実施」といった積極的に外部発信をすることへの意見があった。一方で、同時に伝え

たいこととして、「愛着形成を基盤とする安心と挑戦は、保育所がすべて必要な経験を行ってくれる場所ではないこと」という声があり、回答ではその背景として保育者が担う責務の広さ重さ、待遇への不満等があり、失敗を恐れすぎる保育者も増加しているとの見解も見受けられた。安心と挑戦は保育者自身にも必要であり、保育者の研鑽は必須としつつも保育者への寛容な社会を望む声があった。

主任保育士・副主任保育士等の職種から41の回答を得た。傾向としては保育現場の窮状を訴える声が多く、具体的にいえば保育士不足・複雑な家庭環境へ合わせた保護者支援（愛着形成に問題を抱えるケースの増加）や個々の子どもたちへの援助、保育の長時間化などにより、保育者が疲弊しているという内容だった。そのような中だからこそ、こうした保育現場の声に着目するアンケート調査への感謝の意見も多く頂戴した。

保育士・保育教諭からは111の意見を頂戴した。直接、保育現場に身を置く立場として保育者の負担軽減（保育士確保といった働く環境改善）を願う声が多く寄せられた。7つのメッセージや愛着形成について、今回のアンケートでさらに知る機会となった反面、大事にしたいができない、手が足りない（ゆとりがない）という現状も記されていた。また、「不適切保育」ばかりが取り上げられるのではなく、家庭での経験の大事さといったこのようなメッセージが一般に取り上げられる機会の増加を望む声もあった。保育所への体験研修を各企業で実施するといった具体的な提案も目を引いた。

保育者以外の職種からも23件意見を頂戴した。保育士以外からも保育やこうした運動を学ぶ機会を求める声があり、保育を下支えしたいという気持ちに嬉しさを感じた。

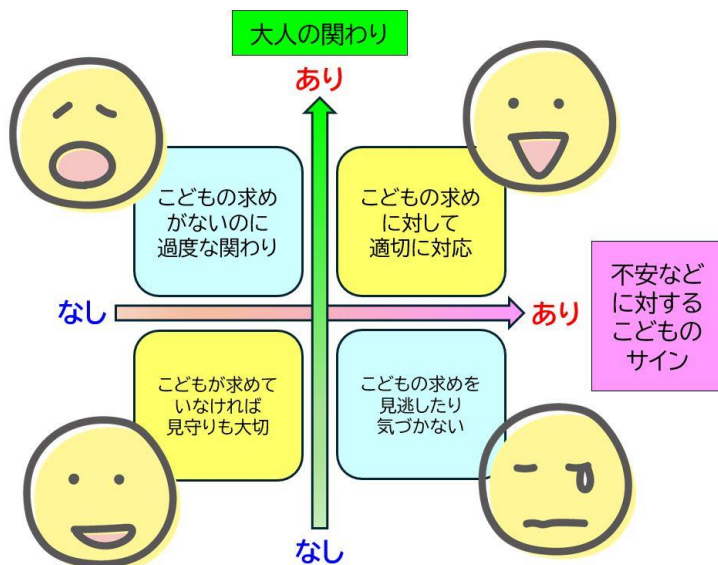
これまで回答者の職種ごとに意見を集約してみたが、7つのメッセージ等が大切にしている『こどもの育ち』の内容について保育者や保護者、行政そして社会全体が同じ方向性を向くことの大事さと難しさが多く述べられていた。なぜ難しいのかと考えた時、ある感想を反芻した。「大人が未来を生きる子どもたちについてイメージを持ってないことが残念でならない」。この気持ちは立場を超えて横たわる障壁ではないだろうか。

人口減少時代を生きる子どもたちは、我々大人が生きてきた子ども時代と違う世界を歩んでいく。そのことを私たち大人は真正面から受け止める必要があるのではないかと感じる。明るい将来を描くための7つのメッセージを、それぞれが使命感をもって保護者を巻き込み社会へ発信していくこと、保護者と保育者のゆとりの両立の実現など難問は数多くあるが、これらの難問に常に触れていく正直な姿勢がいつか風穴を開けるのだと信じ、この自由記述の結言とする。

## コラムⅤ 見守りも大切

安定したアタッチメントを形成するためには、関わりの過不足にも配慮が必要です。保育は子どものとの関わりを中心に展開されることが多く、アタッチメントの場合でもくっつくなど接触を伴うイメージを持たれる方が多いと思います。しかし子どもが求めている時にはそのまま見守ることも大切です。

子どもが楽しんで遊んでいる場面で、もっと盛り上げてあげようとして大人が加わり、なんか変な雰囲気になったことはありませんか？子どもへの関わりを状況に応じて、出したり引いたりするのは子どもの個性も影響するので難しいかも知れませんが、満足して過ごしている時にはあえて干渉しないことが子どもの育ちにプラスに働くこともあります。



# こどもの育ちにおける 安心と挑戦の循環 に関する調査

2023年12月『幼児期までの  
こどもの育ちに係る基本的なビジョン』  
(以下、「育ちビジョン」)が閣議決定  
されました。この「育ちビジョン」は、  
幼児期までの「こどもの育ち」において  
全ての人と共有したい理念や基本的な  
考え方を整理したものであり、社会全体の  
認識共有を図り、政府全体の取組を強力に  
推進するための羅針盤として位置づけられています。



そのなかで「こどもの誕生前から幼児期までの育ち」において、  
「アタッチメント(愛着)」の形成と豊かな「遊びと体験」が  
重要とし、その考え方を「安心と挑戦の循環」として  
整理しています。全私保連においても2021年10月  
から取り組んでいる『新しい時代は子どもから  
～子どもの今が未来を創る～』と題した保育運動  
(7つのメッセージ)を展開しており、その目指す  
方向性は「育ちビジョン」と同じものです。  
私たちが日々行っている保育の中では既に「安心と  
挑戦の循環」は行われていて、そこを再認識する機会  
とすることにより保育の質が深まります。

国の「育ちビジョン」や全私保連の「7つのメッセージ」が、  
まず保育者に理解、実践されることを願い、さらに将来的には  
その保育者一人一人が保護者や地域への発信源になることを  
願い本アンケートを実施します。得られた結果とその考察は  
こどもの育ちの向上と社会全体での理解に寄与するよう努めて  
まいりますので皆さんのご協力を心よりお願い申し上げます。

調査内容: 下記「調査票」に基づくインターネット調査

<https://questant.jp/q/anshinchousen>

調査対象: 保育施設で働くすべての方

調査期間: 令和6年6月1日～6月30日



本調査はインターネット調査で  
実施し、よりスピーディーな意見  
回収と結果報告を行います。皆さ  
んからの回答が保育現場の『見え  
る化』を推進力になります。  
(回答所要時間約5分です)



この調査の回答はここから！

<この調査に関することへのお問い合わせ先> (公社)全国私立保育連盟 調査部担当 03-3865-3880

## こどもの育ちにおける安心と挑戦の循環に関する調査

### 【調査項目】

Q1. ご回答頂いている方の施設の施設種別をお答えください。

○保育所 ○幼保連携型認定こども園 ○保育所型認定こども園  
○地域裁量型認定こども園 ○幼稚園型認定こども園 ○小規模保育 A  
○小規模保育 B ○その他

Q2. 貴施設の在園児の規模についてお答えください。

○30人未満 ○30人～60人未満 ○60人～90人未満  
○90人～120人未満 ○120人～150人未満 ○150～180人未満  
○180人以上

Q3. ご回答頂いている方の役職をお答えください。(複数回答可)

○理事長 ○理事 ○園長 ○副園長 ○主任保育士・主幹保育教諭  
○副主任保育士・副主幹保育教諭 ○保育士・保育教諭(クラスリーダー)  
○保育士・保育教諭(クラスリーダー以外) ○保育士・保育教諭(フリー)  
○保育補助(資格なし) ○保健師 ○看護師 ○栄養士 ○調理員 ○事務員  
○その他

Q4. 今あなたが保育で最も接する子どもの年齢を教えてください。

○0歳児 ○1歳児 ○2歳児 ○3歳児 ○4歳児 ○5歳児  
○年齢を決められない ○わからない

Q5. 国の『育ちビジョン』では、こどもの育ちに必要な「アタッチメント(愛着)」  
は、こどもが怖くて不安な時などに身近なおとな(愛着対象)がその気持ちを受け  
止め、こどもの心身に寄り添うことで安心感を与えられる経験の繰り返しを通じて  
獲得される安心の土台である。  
とされていますが、知っていましたか？

○言葉も意味も知っていた  
○言葉は聞いたことはあるが、意味は知らなかった  
○言葉も意味も知らなかった

Q6. 『育ちビジョン』では乳幼児のアタッチメント(愛着)形成の対象に保護者だけ  
でなく、専門的な知識を有して接する保育者も該当するとされていますが、その考  
え方をどのように思いますか？

○とてもそう思う ○そう思う ○ややそう思う  
○どちらでもない  
○ややそう思わない ○そう思わない ○まったくそう思わない  
○わからない

Q7. あなたは保育を行う上で、乳幼児にとってのアタッチメント(愛着)形成の対  
象、言い換えれば『安心の土台』の対象となる関係性を築いていると思いま  
すか？

○とてもそう思う ○そう思う ○ややそう思う  
○どちらでもない  
○ややそう思わない ○そう思わない ○まったくそう思わない  
○わからない

Q8. 全私保連が展開している『新しい時代は子どもから- 子どもの今が未来を  
創る-』と題し、以下の7つのメッセージを発信しています。

～私たちが伝えたい7つのメッセージ～

- ① 子どもの思いを受け止めよう
- ② 子どもの「遊び」を守りましょう
- ③ 子ども自身に乗り越える力を育てましょう
- ④ 子どもの「自分でやりたい」を大切にしましょう
- ⑤ 子ども同士の関わりが大切です
- ⑥ みんなで食べると美味しいんです
- ⑦ 子どもは自然が大好きです

このメッセージ内容を知っていましたか？

○保育通信で読んだことがある  
○保育運動推進会議のチラシで読んだことがある  
○保育運動推進会議のブースで見たことがある  
○会議や研修会の際、保育推進運動会議による PR を聞いたことがある

○全私保連 HP『あおむし通信』で読んだことがある  
○言葉は聞いたことはあるが、内容は知らなかった  
○言葉も内容も知らなかった

Q9. 問8の7つのメッセージに関連して、あなたは普段の保育で意識していますか？

<マトリクス横項目>

- [1] とても意識している
- [2] 意識している
- [3] やや意識している
- [4] 意識していない
- [5] わからない

<マトリクス縦項目>

- ① 子どもの思いを受け止めよう
- ② 子どもの「遊び」を守りましょう
- ③ 子ども自身に乗り越える力を育てましょう
- ④ 子どもの「自分でやりたい」を大切にしましょう
- ⑤ 子ども同士の関わりが大切です
- ⑥ みんなで食べると美味しいんです
- ⑦ 子どもは自然が大好きです

Q10. 保育のなかで日常的に行われている、こどもの育ちの過程で必要な経験の  
大切さが今以上に社会全体で理解され、実現するためにはどんな取り組み  
が有効だと思いますか？【自由記述】(自由記述: 300文字まで)

Q11. 今回のアンケートに関してのご意見、ご感想を教えてください。【自由記述】  
(自由記述: 300文字まで)

\*本報告書に関するご意見、ご感想、お問合せ等は、  
下記の全私保連調査部へお寄せくださいませ。

## こどもの育ちにおける安心と挑戦の循環に関する調査

令和6年 10 月1日編

編者 公益社団法人全国私立保育連盟 調査部

調査部長 川島 俊樹（岐阜県・川島東こども園）

調査副部長 久居麻紀子（千葉県・音のゆりかご保育園）

調査部員 小川 幸伸（和歌山市・のざき保育園）

調査部員 田中 育美（徳島県・育英認定こども園）

調査部員 桑原 静香（長崎県・認定こども園  
島地シティ夜間保育園）

調査部員 津村 侑弥（秋田県・明照保育園）

問合せ先 公益社団法人全国私立保育連盟

〒111-0051

東京都台東区蔵前 4-11-10 全国保育会館

TEL 03-3865-3880 FAX 03-3865-3879

URL:<https://www.zenshihoren.or.jp/>

E-mail:[ans@zenshihoren.or.jp](mailto:ans@zenshihoren.or.jp)